



洋上アルプス

No.269 平成29年8月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の総会開催

7月21日

屋久島離島開発総合センターにおいて総会が開催されました。本会では、来賓の屋久島森林管理署川畑署長から「レクリエーションの森については、質の向上が求められており、森林環境整備協力金についても利用者の目に見える形で使っていくことが重要」とあいさつがありました。

続いて、平成28年度の活動実績や決算の報告、平成29年度の活動計画や予算の提案がなされ承認されました。平成29年度の主な新たな活動として、白谷雲水峡の白谷川渡渉点（登山道上の沢）に架橋等を検討していくこと、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会のロゴマークの制作などがあげられています。

平成28年度の白谷雲水峡・ヤクスギランドの入場者数は前年より増加するとともに、平成29年度当初（4・5・6月）の入場者も前年同期と比較すると増加していますが、一過性のものにならないよう、サービス等質の向上を目指し、適切な整備をしていく必要などの意見がありました。



総会での話し合いのようす

参加者募集中！

森林に学び、森林で楽しむ。夏休み親子森林教室

毎年好評の、夏休み親子森林教室を、今年も開催します。夏休みの自由研究の題材に役立つかもしれません。小学生のみなさん、ぜひご参加ください！

- ◇開催日 8月20日（日）
- ◇場所 ヤクスギランド
- ◇参加資格 学生と保護者の方
- ◇参加定員 親子で50名（先着順・要予約）
- ◇参加費 100円（傷害保険料等）
- ◇申込締切 8月14日（月）
- ◇お申込/お問合せ 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会事務局（0997-42-3508）



過去の森林教室のようす

主催：屋久島レクリエーションの森保護管理協議会

共催：屋久島森林管理署、屋久島森林生態系保全センター、公益財団法人屋久島環境文化財団

西部地域ヤクシカ個体群の保護管理に関する意見交換会 6月30日

西部地域は、国立公園特別保護地区や特別鳥獣保護区、森林生態系保護地域に指定されており、県道沿いで車両からヤクシカやヤクシマザルを観察するという利用形態で公園利用が行われて、屋久島観光の拠点となっています。また、大学などによりヤクシマザル等の生態研究が行われ、自然生態の研究のフィールドにもなっています。

しかし、この西部地域は、ヤクシカの生息密度が高く、森林の更新や土壌流失による生態系影響が懸念されており、森林生態系の管理やヤクシカ個体群の保護管理について、今後どのようにするかということで、有識者や関係行政機関等が集まり、屋久島環境文化村センター及び西部林道にて、西部地域の生態系管理・ヤクシカ個体群の保護管理に関する意見交換会が行われました。

登山者の安全確保を！ 荒川登山道定期安全点検を実施 7月10日



危険箇所の有無を確認する職員たち

屋久島山岳部保全利用協議会は、縄文杉に向かう登山者への安全対策の一環として行っている荒川登山道定期安全点検を、林野庁・環境省・鹿児島県・屋久島町・屋久島町観光協会等関係する団体が参加し実施しました。

当日は、荒川登山口から大株歩道入口までのトロッコ道区間（7km）において危険箇所の点検を行い、新たな危険箇所やこれまで示された危険箇所の変化状況など参加者全員で確認しました。

また、今回の点検では、これまでの豪雨等により落石した箇所や枯損倒木が滑り落ちそうな危険箇所もあり、経過観察に加え、今後の撤去対策等講じることを確認しました。

平成29年度 第1回 屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会 7月17日



屋久島らしい山岳部利用のあり方を議論する

屋久島環境文化村センターにおいて、国、県、町等関係行政機関および関係団体が出席し、「平成29年度第1回屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会」が開催されました。

本検討会では、世界自然遺産地域を含む屋久島国立公園の山岳部の自然環境の保全と、屋久島らしい質の高い利用体験の提供を目的に、基本理念及び基本方針など具体的な検討を進めることとしています。今回は、伝統的な自然観・人と自然の関わり、自然環境を損な

わない範囲・方法での利用等の前提となる考え方や山岳部の価値、魅力、屋久島らしさなど前提となる考え方など、屋久島山岳部の保護と利用の「目指す姿」、「あるべき姿」についての意見交換が行われました。

また、山岳部において利用の異なる登山道ルートの情報収集を図るため、第2回検討会で花山歩道～宮之浦岳～淀川登山口、縄文杉ルート、白谷雲水峡の3ルートでの現地視察の実施を確認しました。

屋久島の蝶 (第1回)

— 屋久島には何種類の蝶がいるか —

久保田 義則 (鹿児島昆虫同好会)

中学生時代、昆虫採集に夢中になった経験を活かし、1998年に移住後屋久島の昆虫について調査を始め、現在に至っています。屋久島の昆虫に関しては、1973年に岡留恒丸先生が「屋久島の昆虫相」として包括的にまとめられており、240科1896種が採録されています。この中には、9科66種の蝶が含まれています。蝶は、島に土着している在来種と島外から一時的に飛来する非土着の迷蝶に分けられ、66種の内訳は、53種の在来種と13種の迷蝶になります。

その後の調査結果を踏まえ、屋久島が世界遺産に登録される直前の1992年に出版された福田晴夫先生の「鹿児島島のチョウ」には、疑問符の付いたものを除き屋久島の蝶として8科77種(在来種55種、迷蝶22種)が挙げられています。これは、最新の分類では5科77種となり、内訳は、セセリチョウ科7種、アゲハチョウ科11種、シロチョウ科11種、シジミチョウ科19種、タテハチョウ科29種に分類されます。この内、屋久島を南限とする蝶には、キアゲハ・ミヤマカラスアゲハ・ツマキチョウ・スジグロシロチョウ・ルーミスシジミ・キリシマミドリシジミ・ゴイシシジミ・ツバメシジミ・コムスジ・ヒメウラナミジャノメ・ウラナミジャノメ・ヒメジャノメ・ヤマキマダラヒカゲの13種がいます。

1998年移住以降の調査で、77種の内、在来種49種・迷蝶16種計65種を確認し、標本として保存しています。確認できなかった在来種6種・迷蝶6種計12種を表に示します。確認できなかった理由として①個人による調査では探索が不十分なこと、②世界遺産登録地では調査不可で国有林でも調査が難しくなっており、以前より調査地域が大幅に狭くなっていること。③既に屋久島では種が絶えている。などが考えられます。また、迷蝶の場合、偶然の出逢いで採集にいたる場合が多いですが、その様な幸運に恵まれなかったことも上げられそうです。

一方、従来確認されていなかったナミエシロチョウ・タイワンモンシロチョウ・イワカワシジミ・ヒメシルビアシジミ・タイワンクロボシシジミ・クロマダラソテツシジミ・キタテハ・ミナミコモンマダラ・ツمامラサキマダラ・マルバネルリマダラ・ミダムスルリマダラ・クルーギールリマダラの12種(表)を新たに採集しています。この結果、1998年以降、採集し確認できた屋久島の蝶は77種(在来種50種・迷蝶27種)になります。過去に記録され未採集の12種(表)を加えると89種(在来種56種・迷蝶33種)が屋久島の蝶と言えそうです。第2回以降は、在来種でありながら旅をするアサギマダラの屋久島経由の旅の様子や新たに確認したイワカワシジミ・ヒメシルビアシジミ・クロマダラソテツシジミなどについて述べます。(つづく)

表. 屋久島の蝶

屋久島の蝶(1992)* 科と種数	1998年以降未採集種 (・迷蝶)	1998年以降新採集種 (・迷蝶)
セセリチョウ科：7種 在来種：7種	ホソバセセリ オオチャバナセセリ	
アゲハチョウ科：11種 在来種：9種 迷蝶：2種	・カバシタアゲハ ・シロオビアゲハ	
シロチョウ科：11種 在来種：7種 迷蝶：4種	・ウラナミシロチョウ	・ナミエシロチョウ ・タイワンモンシロチョウ
シジミチョウ科：19種 在来種：15種 迷蝶：4種	ルーミスシジミ ゴイシシジミ ・ウスアオナガウラナミシジミ ・タッパンルリシジミ	イワカワシジミ ・ヒメシルビアシジミ ・タイワンクロボシシジミ ・クロマダラソテツシジミ
タテハチョウ科：29種 在来種：17種 迷蝶：12種	メスグロヒョウモン オオウラギンヒョウモン ・ヤエヤマムラサキ	・キタテハ ・ミナミコモンマダラ ・ツمامラサキマダラ ・マルバネルリマダラ ・ミダムスルリマダラ ・クルーギールリマダラ
77種 在来種：55種 迷蝶：22種	12種 在来種：6種 迷蝶：6種	12種 在来種：1種 迷蝶：11種

*福田晴夫(1992)鹿児島島のチョウ 春苑堂出版203-210



屋久島の植物

ケイピラン (キジカクシ (ユリ) 科)

紀伊半島以南、屋久島を南限とする多年草で、屋久島では山地の岩場に生育している。線形で束生する根出葉を雄鶏の尾にたとえて「鶏尾蘭」。花期は7~8月、10~20センチほどの花茎に白色や淡紫色の花をまばらにつける。

屋久島生態系モニタリング



屋久島北部等の植生垂直分布調査（平成27年度）

●標高1000mプロット（ツガ・サクラツツジ群集）

222林班内の沢上流左岸の尾根直下の急斜面上にあり、登山道「益救参道」沿いに設置。高木層にはスギ、ツガ、ヒノキなどの針葉樹のほか、常緑広葉樹のアカガシ、落葉広葉樹のヒメシヤラやヤマザクラなどが生育する混交林。

【結果概要】

尾根上の調査地で全体的に高木層が少ない。高木層はツガやスギ、亜高木層としてユズリハなど、低木層としてサクラツツジなど、草本層にはハイノキ、ホソバコケシノブ、アセビなどが生育。ホソバコケシノブやアセビはヤクシカの不嗜好性植物である。調査地の低木層、草本層の植被率は低く、ヤクシカの採食圧によるものと考えられた。

【草本層の変化とヤクシカ生息状況】

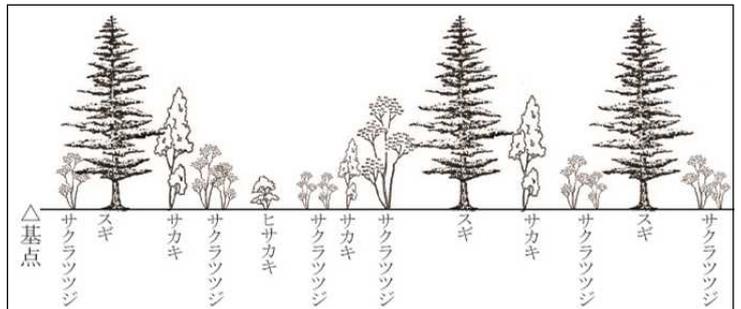
植被率は50%から30%へと減少した。同一小プロット内の出現種を比較すると、種数が22種から26種と増加した。構成種を見ると、アカガシやヒメシヤラといった高木層構成樹種の稚樹が新たに確認された。またヒメヒサカキ、コウヤコケシノブ、ミヤマシキミなども新たに確認された。一方、イヌガシ、ヤブツバキ、ツリシュスラン、サルトリイバラなどは、今回の調査で確認されなかった。イヌガシやサルトリイバラはヤクシカの嗜好植物である。当プロット周辺にはヤクシカが2.3頭/km²と少ない密度ではあるが、採食された可能性がある。

【過年度との比較】

H22調査では高木層の優占種がH17調査からツガからスギに変化した。今回の調査でもスギが優占していた。今回調査ではヤクシカの不嗜好性植物が、更に増加していた。



プロット付近の概況



群落配分図(横断面)

夏休み中は混雑が予想されます マナーアップで縄文杉を守ろう！

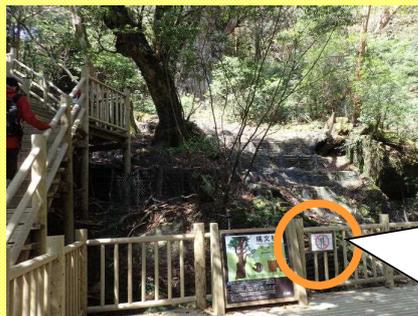
屋久島のシンボリックな存在となっている「縄文杉」が発見され、今年で50年を迎えました。

この間に登山客も急激に増加したことにより周囲の植生が踏まれたり、土壌が流出し根が露出したりしたため植生回復措置を行い、その対策を講じるため「縄文杉周辺を立入禁止区域」として設定し展望デッキが設置されました。

平成17年には樹皮がはがされる被害が発生したため、その対策としてカメラを設置し世界遺産の象徴でもある縄文杉の被害の防止と保全に努めています。しかし残念なことに、立入禁止区域内に入り記念撮影をするなど増加傾向にあります。(写真1)

マナーやルールを守り屋久島の財産である縄文杉をみんなで大切にしましょう。

また、**展望デッキ上での食事やドロンの飛行は行わない**ようお願いします。決められた登山道を利用し「**立入禁止区域**」へは立ち入らないようお願いします。



(写真1) 監視カメラに映った、立入禁止区域内の侵入者

デッキ上 食事禁止
Meal ban on the deck
禁止在吃饭的观景台
전망 데크에서 식사 금지

縄文杉デッキに「デッキ上 食事禁止」の看板を設置しています。